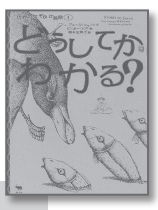
今月の

ブックトーク

9月 ものはやりよう
～こんなやりかたがあったのか！～

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

残暑で頭がぼーっとしちゃう、なんて人はいませんか？頭をシャキッとさせるのにおすすめなのが「**世界のなぞかけ昔話①：どうしてかわかる？**」。頭をひねらないと解らないおもしろい謎かけがたくさん出てきますよ。



ジョージ・シャノン・作
ピーター・シス・絵
福本 友美子・訳
晶文社

では１問。(P49『天国と地獄』を出題)

わかりましたか？(答えを読む)まさにものはやりよう！ですね。

というわけで、今日は「こんなやりかたがあったのか！」という本を紹介します。

「**フレディ：世界でいちばんかしこいハムスター**」

ペットショップにいたハムスターのフレディは、自由を夢見ていました。そこで芸を習得し、その甲斐あって、ゾフィーという女の子に飼われることになります。



ディートロフ・ライヒェ・作
しまだ・しほ・絵
佐々木田鶴子・訳
旺文社

彼女は宿題をする間、ケージから出してくれたので、賢いフレディは文字が読めるようになりました。さらに、ある物を使ってケージの戸を開けることを考えつき、脱出！本を読むためママの部屋にこっそり行きますが、それが原因で家を追い出されてしまいます。その後、別の家に預けられますが、そこにはあるいいものがありました。それを使えば、人間に自分の思いを伝えられるのです。一体どんな方法でしょう？なるほど、こんなやりかたがあったのか！と思いますよ。

タチバナさんは生まれてから20年以上、体が自由に動かずねたきりで、歩いたことはありません。でも散歩に行きます。タチバナさんは「**口で歩く**」のです。

ある日、友だちの上野さんのところまで散歩に行きたくなり、お母さんに車輪付きベッドに乗せてもらいました。でもお母さんは一緒に行きません。タチバナさんは通りかかった学生さんに「すみませーん！」と声を掛けました。目的地の上野さんの家まで、通行人に少しずつ押していってもらうのです。優しく引き受ける人もいれば、ひどいことを言う人もいたり…さまざまな人と出会いながら、やっとたどり着くと、上野さんは「きみは口で歩いているようなものだね」といい２人で笑い合いました。



丘 修三・作
立花 尚之介・絵
小峰書店

ところで途中で会ったおじさんに「人に押してもらって散歩するなんて非常識だ」と怒られるのですが、タチバナさんは人に迷惑をかけているのでしょうか？読んでみて下さい。

次は「**風船で宇宙を見たい！：やってみることから開ける無限の未来**」この表紙の写真は、風船で撮影した宇宙です。著者の岩谷さんは大学時代、ある記事を見て、風船で宇宙を見る挑戦を始めます。どのくらいの重さのカメラなら風船で飛ばせるか計算したり、さまざまな風船を取り寄せたり。工夫を重ね、風船付きカメラの１号機が完成しました。でも、風船同士がぶつかって映像はブレてしまいます。改良を続けるもなかなか成功せず、４号機は海に落ちて行方不明に。さすがに諦めかけますが、この後ある奇跡が！これに背中を押され、研究を続けていきます。どのようにしてこの夢を叶えていくのでしょうか。



岩谷 圭介・作
くもん出版

さぁ、ものはやりよう。紹介した本の主人公たちのように、皆さんも諦めず、自分のやり方で道を切り拓いてくださいね。

最後のページのクイズの答え：**Q1** ② 羽をこすり合わせている　**Q2** ① 天皇や貴族たち　**Q3** ① 子どもなら、勝手に他の家のも食べてよい（「お月見泥棒」と呼ばれる風習がありました）　**Q4** ① ぶどうが自分で作った、雨や病気から身を守るための成分

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。